

私たちの窓は、いつもみなさまに開かれています



2012年4月1日発行  
NO.382

APRIL

4

**特集**

## 創立50周年記念「当院の歩み」P-2

●メディカル・ニュース

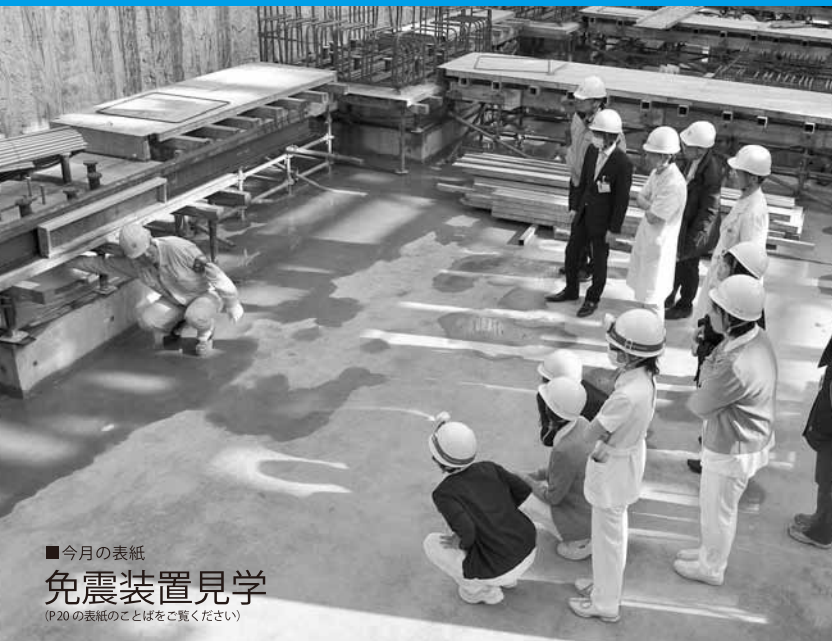
金環日食を安全に観察するために P-6

●栄養カード

はちみつ P-7

新任医師紹介 P-8

**50**  
th Anniversary  
聖隷浜松病院



■今月の表紙

## 免震装置見学

(P20の表紙のことばをご覧ください)

**病院理念**

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ



社会福祉法人聖隷福祉事業団

総合病院 **聖隷浜松病院**

# 特集

聖隷浜松病院

# 50 当院の歩み

おかげさまで創立50周年  
を迎えました。

50周年を記念して、当院の  
軌跡をご紹介します。



昭和37年1号館完成



創立当時の手術風景



昭和50年頃の職員集合写真

## 昭和 30 年代

- S34年(1959) 聖隷浜松診療所として発足
- S37年(1962) 社会福祉法人聖隷保養園聖隷浜松病院 開設 (114床)
- S38年(1963) 成人病検診車第1号購入、成人病の集団検診開始  
人工心肺下に心室中隔欠損の直視下手術 第1例に成功

## 昭和 40 年代

- S40年(1965) 脳神経外科センター完成 (117床)
- S43年(1968) 人工腎臓装置を設置し、人工透析を開始  
ガンセンター棟完成
- S44年(1969) 総合病院として認可される (350床)

## 昭和 50 年代

- S52年(1977) 未熟児センター開設  
日本初の新生児(未熟児)救急車設置
- S55年(1980) 厚労省の認可により臨床研修医指定病院となる

## 総合病院となるまで

1959年、元目町(中区)にあった聖隷保養園(後の聖隷福祉事業団)の付属診療所を、緑濃い茶畑のある住吉へ移転し、聖隷浜松診療所として新たに発足しました。これが聖隷浜松病院の前身です。

1962年3月、社会福祉法人 聖隷浜松病院として、内科・外科・循環器科・小児科・婦人科・消化器科・呼吸器科・気管食道科の8科の診

療科、病床数114床でスタートしました。当時、心臓の手術ができる病院は日本では僅かで、県内最初の専門病院でした。それから3年後、東海地方で初めての脳神経外科センターを開設しました。1968年には放射線治療を有したがんセンターを開設。翌年には泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科が開設され、7月に総合病院として認可を受けました。

## 総合病院として治療だけでなく

医療体制が拡充する一方、医療現場を支える人材の育成や利用者サービスにも力を注ぎました。臨床研修医指定病院の指定や、病院運営理念に基づく「職場づくり・人材づくり」を、独自のプログラムを作成して研修を行いました。また、入院患者さんへの温かい食事の提供として適時適温給食をいち早くスタート。地域の病院・診療所と密に連絡を取り合い、患者さんへの治療を迅速に行うための地域医療連絡室も開設しました。



平成16年医師卒後臨床研修必修化制度スタート

## 平成 10 年代

- H10年(1998) 県内初の総合周産期母子医療センター開始
- H13年(2001) 第3期病院建築工事了  
救急センター開設
- H16年(2004) 地域医療支援病院として承認
- H17年(2005) 地域がん診療拠点病院に指定
- H18年(2006) 2006年度医療の質奨励賞受賞  
(主催：日本科学技術連盟)

- H22年(2010) 救命救急センターに指定  
第4期病院建築工事中
- H27年(2015) 第4期病院建築工事成済予定

## 平成 20 年代

第4期病院建築工事成済予想図



昭和62年頃の研修風景

## 昭和 60 年代

- S61年(1986) 心臓病専門の救急車(ドクターズカー・モバイルCUU)導入
- S62年(1987) 訪問看護室設置、専任体制で訪問看護活動開始  
第2期病院建築工事成済(744床)
- S63年(1988) 県内初の超伝導MRIを設置

## 平成 1 年代

- H4年(1992) 適時適温給食開始
- H6年(1994) 地域医療連絡室(JUNC)開設
- H7年(1995) ジュビロ磐田の契約医療機関として医師派遣開始

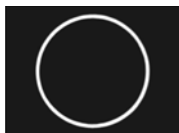
## 今後も

創立より地域や時代のニーズに積極的に応える医療やサービスを心掛け、多岐に渡り体制・設備を拡充してきましたが、50年の間には幾多の困難がありました。この困難を乗り越えてこられたのは、先人達の努力と多くの皆さまの暖かいご支援の賜です。この返礼は「利用者のために最善を尽くす」こと。これからも、病院理念である「わたしたちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ」を胸に、安心・安全を最優先にした医療を実践いたします。

2012年5月21日(月)  
金環日食を安全に観察するために

眼科部長 / 尾花 明

5月21日(月)朝、25年ぶりに金環日食が観察できます。特に浜松はきれいな金環になります。今回は18年後の北海道。この機会をぜひ、お見逃しなく!



食の始め	6時 17分
金環日食の始め	7時 29分
食の最大	7時 32分
金環日食の終	7時 34分
食の終り	8時 59分

観察には注意が必要です。太陽を直接、肉眼で見るとは絶対いけません!!!

太陽光は強烈なので、短時間でも見つめると目を傷めます。すぐには異常がなくても、数時間後に、目の熱感や痛み、ぼやけを生じます。これを日食網膜症と呼びます。ひどいときは視力が戻らなくなります。

もっとも危険の少ない観察方法は、ピンホール効果の原理で投影された太陽の形を見る方法です。厚紙にあげた小さな穴を通した像を紙に映します。地面の木漏れ日でも太陽の形がわかります。

直接太陽を見る場合は、日食グラスをご使用ください。多数の商品がありますが、安全性の保障されたものを使用し、正しい使用方法を守ってください。望遠鏡や双眼鏡と組み合わせてはいけません。時々、目を休めながら観察し、疲れや違和感がでたら、見るのをやめましょう。もし、異常が続けば眼科を受診してください。

詳しくは、2012年金環日食日本委員会 <http://www.solar2012.jp/> をご覧ください。学校向け資料の中に、観察方法などの詳しい情報が記載されています。今回は、通学時間帯に当たるので、特に、お子様をお持ちの方は、指導をしてあげてください。



栄養card

# はちみつ



ミツバチは花の蜜を集めて、体内にある酵素の力で変化させます。さらにその水分を蒸発させて濃縮させたものがはちみつになります。どんな花から採れたかで、その種類が分けられます。また、同じ花でも採れる場所や気候によっても変化があります。

## { はちみつの選び方 }

外国産が多く売られていますが、国産はクセが少なく風味がよいと言われています。花の種類によって、色や味の違い、酸味の強弱、固まりやすい、固まりにくいなど特徴もさまざまです。国産は水分が多いので、約2年間がおいしく食べられる期間です。できれば、古いものは砂糖の代わりに煮物などに使用し、新しいものはトーストに塗るなど直接食べるのに使うとよいでしょう。

## { 乳児が食べられないのは? }

はちみつには、ボツリヌス菌の芽胞が入っていることがあります。腸が未発達な1歳未満の乳児は「乳児ボツリヌス症」を起こす危険性があるので、要注意です。

## { はちみつの栄養成分 }

良質なビタミン類やミネラル類をはじめ、アミノ酸や酵素といった栄養素も豊富に含まれている、非常に栄養価の高い健康食品です。また、砂糖の1/3の容量でおなじ甘さになり、しかもカロリーは砂糖の約60%です。

文責 栄養課 村松 理沙